

市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

「川口市消防団」

明治19年の消防組に起源をたどり、消防組と防護団を統合した警防団を経て、昭和22年に現在のかたちとなり、11支団・29分団400人を超える団員が、新たな川口市61.97平方キロメートルの安全と安心のため、市消防本部の所管のもと日夜備える「川口市消防団」。「自分たちのまちは自分たちで守る」という崇高な精神のもと、自らの仕事をもちながら志願して団員となり、火災や災害に立ち向かうみなさんを岡村市長が訪問。活動内容などを伺いました。



市長 みなさんこんにちは。よいよ3月を迎えました。東日本大震災発生から1年がたちます。あらためて犠牲になられたみなさんのご冥福をお祈りするとともに、いまなお大変な生活を強いられている被災者のみなさんに心からお見舞いを申し上げます。さて、今月の市長のふれあい訪問は、川口市消防団のみなさんです。どうぞよろしくお願います。はじめに、団長の金子さんに伺いますが川口の消防団というのはいつできたのですか。

金子 消防団の歴史は江戸時代に大岡越前守がつくった町火消し「いろは48組」が始まりで、明治19年に消防組になり、昭和22年に消防団設置条例ができて川口市消防団が誕生しました。

市長 組織はどのようになっていますか。

矢作 市内に、11支団あり、定員は511人ですが、現在は452人の団員が活動しています。欠員がありますので現在も募集しています。



飯田 各支団の下に2分団または4分団あり、全部で29分団あります。各分団に1台ずつポンプ車が配備されています。

市長 みなさん職業を持ちながら消防団活動をされている。まさにこの活動こそボランティアですよね。

小林 年間にわずかな報酬はありますが、ボランティアの精神が非常に大きいです。

市長 入団したきっかけは何ですか。

大川 地元町会の先輩に声をかけられ、自分にも少し興味があったので入団しました。

市長 大沼さんは、女性団員ですが市内には何人ぐらいの女性団員がいるのですか。

大沼 全国では約1万9千人の女性団員が活動し、川口市では21人います。

市長 いづごろ入団されたのですか。

大沼 女性団員の募集が平成14年に初めてあり、川口初の女性団員の一人となりました。

市長 消防団の仕事は結構な力仕事ですよ。女性の仕事というのがあるのですか。

大沼 男女とも同じ仕事をしています。重いものを持つときなど力が必要ですので、力不足を感じることもあります。

市長 川口の消防団では、男女の差がないというのは厳しいですね。

金子 女性でも現場に出場したということが多いので、訓練は男女の差なく実施しています。ただ女性向きの仕事もありますし、力仕事は無理しないでやっていただけだと思います。

市長 日ごろの訓練はどのようなことをやっているのですか。

矢作 各支団、各分団で、自主訓練をやっています。また、消防署の職員に教えてもらったり、研修会に参加したりしています。

市長 消防団は火災以外の災害時にも出動するのですよね。

飯田 地震や水害などのときにも、見回りに出て情報収集を行ったりしています。

市長 消防団への入団者は少ないのですか。

小林 勧誘しても仕事の理由などで断られることが多く、団員の確保には苦慮しています。

市長 増やすにはどうしたらいいでしょうか。

大川 各町会などにお願ひし、短期団員のような制度をといるのもいいかなと思います。

大沼 消防団をまずみなさんに知ってもらうことが大事だと思います。

市長 広める努力をしなければならぬですね。それでは今後の抱負をお聞かせください。

金子 自分たちの街は自分たちで守るという理念の下に活動しています。今後も市民の安全のために活動していきますのでご協力いただき、多くの方に消防団に入っていただければありがたいと思います。

市長 自分の職業を持ちながら率先垂範して消火活動・防災活動をしていただいている消防団員が、みなさんの身近にいてこそぜひご理解していただき、ご支援をいただければありがたいなと思います。今日はありがとうございました。

